

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0001. 女悪魔シンヒカを殺し対岸に辿り着いたハヌマンがランカの都を一望したこと、

0002. ランカの都に潜入したハヌマンが東天に昇った名月を見つめたこと、

0003. ハヌマンが女悪魔ランカを殴り倒し、許されて都に潜入したこと、

0004. ランカの都へ侵入したハヌマン、ラーワンの後宮へ行く、

0005. 後宮のすべての室を探してもシータを発見できなかったハヌマンの失望、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0006. ハヌマンが後宮以外の多くの悪魔の館でシータを探し回ったこと、

0007. ラーワンの宮殿とプシパクビマーン（花の飛行乗物）、

0008. ハヌマンが再度プシパクビマーン（花の飛行乗物）を観察したこと、

0009. ハヌマンがラーワンの宮殿に入り何千人もの美しい妻たちの寝所を観察したこと、

0010. ラーワンの正妻マンドダリをシータと思い違えたハヌマンの狂喜、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0011. 思い違いに気づいたハヌマンがすぐにまたシータ探しを開始したこと，

0012. シータの死を予感するハヌマンの失意落胆，

0013. 帰還をあきらめたハヌマンが最後に決意したアショク樹（無憂樹）の園の探索と想念，

0014. アショクワティカ（無憂樹の園）でシータを探すハヌマン，

0015. 寺院の中でシータを発見した、ハヌマンの歓喜，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0016. 秀美なシータの苦衷をしのび、ハヌマンが深く悲しんだこと、

0017. 女悪魔たちに囲まれるシータを確認したハヌマンの狂喜、

0018. 侍女たちに囲まれてアショク樹の園へ来たラーワンをハヌマンが物陰から見たこと、

0019. 近づくラーワンを見て、恐怖、不安、悲嘆で震えおののくシータ、

0020. シータに恋着するラーワンの妄執、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0021. ラーム様の無力を説いて迫るラーワンに、シータが懸命に反論したこと、

0022. シータに拒まれて激怒したラーワンが、女悪魔たちにシータの監視をさせたこと、

0023. 女悪魔たちがシータを説得したこと、

0024. シータに拒まれて怒った女悪魔たちのシータへの仕打ち、

0025. 女悪魔の暴言を退け、シータが泣きながら呟いたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0026. 泣き抜いた末のシータの決意，

0027. 悪魔の破滅とラーム様の勝利を告げる、ツリジャタの夢の話，

0028. 泣きつづけるシータが死を望んだこと，

0029. シータの身に現れた吉瑞の数々，

0030. シータとの話しあいをはじめる前に、ハヌマンが暗中模索したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0031. ハヌマンがシータに低声で聞かせたラーム様の物語，

0032. シータの自問自答，

0033. シータが語った、ラーワンに拉致されるまでの顛末，

0034. 疑念をもつシータに、ハヌマンがラーム様の威徳を歌い聞かせ宥めたこと，

0035. ハヌマンがラーム様の身体の特徴と威徳を詳述し、シータを信用させたこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0036. ハヌマンがラーム様から預かってきた指輪をシータに見せて宥めたこと、

0037. 一緒にランカを脱出しようとするハヌマンの申し出をシータが拒んだこと、

0038. 身の証を立てるために、シータが秘蔵の宝石をハヌマンに渡したこと、

0039. 疑念を口にするシータにハヌマンが、猿族特有の抜群の行動力を話して得心させたこと、

0040. シータを慰撫したあと、ハヌマンが北方へ飛び立ったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0041. ハヌマンがプラマダワン（美女の園）を破壊したこと，

0042. プラマダワンを破壊したハヌマンにラーワンが送った悪魔軍団との闘い，

0043. ハヌマン、チャイッテャプラサド（悪魔族の守護神を祭祀する殿堂）を破壊する，

0044. プラハストの子ジャンプマリの死，

0045. ランカの大臣の息子七人が戦死したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0046. 悪魔軍の五大司令官の戦死，

0047. ラーワンの息子アクシクマールの大奮戦と戦死，

0048. ハヌマンがラーワンの王室会議場に引き立てられたこと，

0049. ラーワンの威力を目のあたりにしたハヌマンの憂い，

0050. ラーワンが主管大臣プラハストに命じて、ハヌマンに正体を明かさせたこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0051. ラーム様の偉大な神権を説いて、ハヌマンがラーワンを説得したこと、

0052. 別な刑罰を与えるという弟ビビシヤンの提言にラーワンが同意したこと、

0053. 悪魔たちがハヌマンの尻尾に火をつけて、ランカの市中を引き回したこと、

0054. ランカの都の焼尽と悪魔族の悲嘆、

0055. ハヌマンがシータの身の危険を深く憂慮した末に、得心したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0056. あらためてシータの健在を確認したハヌマンが、海を跳び越えて帰還の途に就いたこと、

0057. 帰還したハヌマンが、ジャンプワン、アンガドなどの同志と再会したこと、

0058. ハヌマンが詳述したランカ遠征の成果、

0059. ハヌマンがシータの困窮を詳述して、軍団の勇者にランカ攻撃を促したこと、

0060. シータ救出の構想を情熱的に語るアンガドを諷める、熊の長老ジャンプワン、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0061. 猿の勇士たちによる蜂蜜の園への乱入，

0062. 老猿ダデイクが蜂蜜の園への乱入を猿の王スグリウに報告したこと，

0063. スグリウがハヌマンなどの猿の先遣部隊が目的を達成したことに歓喜したこと，

0064. ハヌマンが帰還して、ラーム様を礼拝しシータ発見の朗報を告げたこと，

0065. ハヌマンがラーム様にシータの消息を詳しく報告したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [05] 莊嚴美の章

0066. シータの消息をつぶさに聞き、髪飾りを胸に押しあててラーム様が嗚咽したこと、

0067. 神人ラーム様に、ハヌマンがシータの伝言を重ねて伝えたこと、

0068. ハヌマンが切々とシータを慰めたことをラーム様に伝えたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0001. ラーム様が吐露した困難な渡海への不安 ,

0002. ラーム様を励ましたスグリウ ,

0003. ハヌマンがランカの要塞について説明し、ラーム様に出陣の命令を要請したこと ,

0004. ラーム様とともに出発した猿の軍団が海岸に辿り着いたこと ,

0005. シータの安否を憂えるラーム様の嘆きと悲しみ ,

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

- 0006. ラーワンが当面の義務遂行について、大臣たちに忌憚のない助言を求めたこと、
- 0007. 悪魔の重臣がラーワンと長男インドラジットの武勇を賛嘆し、勝利を保証したこと、
- 0008. 悪魔の五勇士が、それぞれラーワンに敵撃滅の秘策を披瀝したこと、
- 0009. ビビシャンが兄ラーワンに要請したシータの返還、
- 0010. ラーワンがビビシャンのシータ返還の提言を拒絶して退座を命じたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0011. ラーワンが代議員全員を王室会議場に召集したこと，

0012. ラーワンが引き受けた敵を全滅させる責任，

0013. ラーワンがブランマ様に受けた呪い，

0014. ビビシャンがラーム様の不敗の神話を説いてシータの返還を迫ったこと，

0015. ビビシャンの陳述，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0016. ビビシャンが、ラーワンに最後の諫言をして空路飛び去ったこと、

0017. ラーム様が頼ってきたビビシャンを受け入れて、側近たちに指示したこと、

0018. ラーム様が帰順者の保護の重要性を説き、誓いを述べてビビシャンに会ったこと、

0019. ビビシャンの即位灌頂の儀式、

0020. ラーム様が密使シュクを助け、ラーワンの伝言の返事を与えたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0021. ラーム様が姿を現さなかった海に、矢を射かけて威嚇したこと、

0022. 海の助言でナルが橋を架け、ラーム様と猿の軍団が向こう岸に陣営を築いたこと、

0023. ランカに渡ったラーム様が、先頭を切って出発したこと、

0024. 自分の武力の強大さを喋々と大言壮語するラーワン、

0025. ラーム様の許しを得てランカへ帰還した、シュクとサーランの報告、

ウルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0026. サーランがラーワンに、個々別々に猿の軍団を紹介したこと、

0027. サーランが主要な軍団長をラーワンに紹介したあと、敵の手強さをつぶさに語ったこと、

0028. シュクが猿王国の大臣を紹介し、軍勢の総数を推量したこと、

0029. ラーワンが、ラーム様の恩愛で解放された密偵団の報告を受けたこと、

0030. シャルドウルを団長とする密偵団による、主な勇者についての詳述、

ウルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0031. ラーワンが幻術使いに命じてシータを感乱させる工作をしたこと、

0032. ラーワンが大臣たちを集めて開いた作戦会議、

0033. 女悪魔サルマがシータを慰めたこと、

0034. サルマがラーワンの下した最終決定をシータに話したこと、

0035. ラーワンの母方の祖父マッリャワンがラーワンにすすめたラーム様との和議、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0036. 都の万全の防御態勢を軍司令官に指示して、ラーワンが後宮へさがったこと、

0037. ラーム様が東西南北の大門を攻撃する軍団長を任命したこと、

0038. ラーム様が主要な猿の勇士たちを伴って、スベル山の山頂で一夜を過ごしたこと、

0039. 猿たちとともにスベル山頂からランカの都を遠望したラーム様、

0040. スグリウとラーワンの大立ち回り、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0041. ラーム様が使者として送ったアンガドが、ラーワンの宮殿で悪魔たちに与えた脅威，

0042. 猿軍のランカ攻撃と悪魔軍の迎撃，

0043. 大立ち回りのあと、悪魔兵が猿の兵士に敗北したこと，

0044. 幻術で身をくらましたインドラジットに緊縛されたラーム様とラクシマン，

0045. ラーム様とラクシマンが失神するのを見た猿たちの悲しみ，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0046. インドラジットから両王子の死の報告を受けたラーワンが、歓喜したこと、

0047. シータが、ラーム様とラクシマンの死の現場を見て咽び泣いたこと、

0048. ツリジャタが泣き崩れるシータを宥め、ランカに連れ戻したこと、

0049. ラクシマンの死を知ったラーム様の悲しみ、

0050. 鳥の王ガルルがラーム様とラクシマンを蛇の縄の緊縛から解放したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0051. ラーワンが、猛将ドウマラアクシを出撃させたこと、

0052. 攻撃するドウマラアクシをハヌマンが殺したこと、

0053. ワジラダンシトラの出陣と、反撃するアンガドの奮戦、

0054. アンガドがワジラダンシトラを殺したこと、

0055. アカンパンを総大将とする悪魔の大軍団による猿たちとの激しい戦い、

ウルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0056. ハヌマンによるアカンパンの殺害,

0057. ラーワンの命令による、プラハストの出陣,

0058. ニールによるプラハストの殺害,

0059. ラーワン率いる悪魔軍とラーム様の戦い,

0060. ラーワンの命令で眠りを覚まされたクンプカルンの姿を見た、猿たちの脅威,

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0061. ラーム様が猿の軍団にランカの大門に集結するよう下知したこと，

0062. 宮殿に入ったクンブカルンにラーワンがラーム様の脅威を告げ、敵の絶滅を促したこと，

0063. クンブカルンが戦意を高揚させて大言壮語したこと，

0064. マホダルがクンブカルンを面罵して、戦わずに目的を達成する秘策を進言したこと，

0065. クンブカルンの出陣，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0066. クンブカルンに攻撃されて逃走する猿たちとアンガドの叱咤督励 ,

0067. 戦闘の末に、クンブカルンがラーム様に殺されたこと ,

0068. クンブカルンの死を悼んで、ラーワンが泣いて失神したこと ,

0069. ラーワンの息子と弟が出陣し、大勇者ナランタクがアンガドに殺されたこと ,

0070. ハヌマン、ニール、リシャブが悪魔たちを無残に殺したこと ,

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0071. ラクシマンが雄壮な戦をしたラーワンの王子アティカイを殺したこと、

0072. 憂いに沈むラーワンが、悪魔たちに都の安全を死守するように命令したこと、

0073. インドラジットが梵天の武器で、猿の兵士ともども二人の王子も失神させたこと、

0074. ハヌマンがラーム様とラクシマンをはじめ、すべての猿の兵士を蘇生させたこと、

0075. ランカの都の炎上と、悪魔と猿の両軍団による死闘、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0076. アンガド、ドウィビド、マインドと悪魔たちの死闘，

0077. ハヌマンによるニクンプの殺害，

0078. ラーワンの命令によるマカルアクシの出陣，

0079. ラームチャンドラ様によるマカルアクシの殺害，

0080. ラームチャンドラ様のインドラジット殺害の遠大な構想，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0081. インドラジットが幻のシータの体を斜交いに一刀両断したこと，

0082. インドラジットによる火の祭祀，

0083. シータ斬殺の知らせを受け悲嘆にくれるラーム様を必死に激励するラクシマン，

0084. ビビシャンのラーム様への提言，

0085. ラーム様からインドラジット殺害の命令を受けた、ラクシマンの出陣，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0086. ハヌマンのインドラジットへの挑発，

0087. インドラジットとビビシヤンの怒気満々の言葉の応酬，

0088. ラクシマンとインドラジットの激論の応酬のあとの死闘，

0089. 死闘をつづけるラクシマンとインドラジット，

0090. 危険な死闘の末に、ラクシマンがインドラジットを殺したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0091. インドラジットの死の知らせを受けたラーム様の歓喜，

0092. インドラジットの戦死を知ったラーワンの怒りと悲しみ，

0093. ラーム様による悪魔軍の討滅，

0094. 悪魔族の妻たちの悲涙，

0095. 敵撃滅の執念に燃えるラーワンが、自ら出陣して激戦を展開したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0096. スグリウが悪魔の軍勢を撃破したあと、ビルーパクシを殺したこと、

0097. 壮絶な激戦の末、スグリウがマホダルを殺したこと、

0098. アンガドによる、マハパルシュワの殺害、

0099. ラーム様とラーワンの対決、

0100. ラーワンの敗北、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0101. 医王スシェンがラーム様を慰め、瀕死のラクシマンを蘇生させたこと、

0102. 天帝の贈った軍車に乗って、ラーム様がラーワンとの決戦に臨んだこと、

0103. ラーム様の矢で傷つけられたラーワンを、御者が戦場から連れ去ったこと、

0104. 叱るラーワンに御者がその心意気を説いて得心させ、また戦場に軍車を走らせたこと、

0105. アガスタヤ仙人がラーム様の勝利のためにアディッテヤ・ヘルダイの神呪を伝授したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0106. 自分の勝利を予告する吉祥の兆候を見て闘志をみなぎらせるラーム様 ,

0107. ラーム様とラーワンの一大血戦 ,

0108. ラーワンの死 ,

0109. ラーム様がビビシャンを慰め、ラーワンの葬礼を取りしきるよう命じたこと ,

0110. ラーワンの妻たちの悲嘆 ,

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0111. マンドダリの愁嘆，

0112. ビビシヤンのランカ新王即位灌頂の儀式，

0113. シータに経過を報告したハヌマンが持ち帰ったラーム様への伝言，

0114. ラーム様が、満月のように美しいシータの顔を見たこと，

0115. シータの貞操に疑惑を抱くラーム様が、受け入れを拒んだこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0116. 身の潔白を示すためにシータが火中に身を投じたこと、

0117. 創造神ブランマ様による、ラーム様の神聖性への賛嘆称揚、

0118. 火の神がシータの潔白を保証すると、ラーム様が喜んで受け入れたこと、

0119. 故ダスラト大王が礼拝するラーム様たちに思いの丈を語ったこと、

0120. 天帝が戦死した猿の兵士たちを蘇らせたあと、天国へ還ったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0121. アヨッデヤへの帰還を急ぐラーム様に、ビビシャンが花の飛行乗物を提供したこと、

0122. 猿たちをもてなし、ラーム様が花の飛行乗物でアヨッデヤの都へ向かったこと、

0123. ラーム様が花の飛行乗物の中で下界の模様をシータに説明したこと、

0124. ラーム様がバルドアジ仙人と会い神約を授けられたこと、

0125. ハヌマンがニシャド王グハとバラトに、ラーム様凱旋の朗報をとどけたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [06] 決戦の章

0126. ハヌマンがバラトに、ラーム様、ラクシマン、シータの森林生活の詳細を伝えたこと、

0127. ラーム様が花の飛行乗物を着陸させ、元の持ち主クベルに返したこと、

0128. バラトの大政奉還、ラーム様の都の巡回、猿たちとの別れ、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0001. インドラジットの武勇を讃える大聖仙たちへのラーム様の質問，

0002. ラーム様の質問を受けて、大聖者アガステヤ仙人が語ったラーワン一族の発祥と神約，

0003. ビシュラワ仙人の子ワイシュラワンが、苦行の功德で神約を得てランカに住みついたこと，

0004. 悪魔族の発祥——ヘティ、ビデュットケシ、スケシの誕生，

0005. スケシ悪魔の子マツリヤワン、スマリ、マリの子供たちについて，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0006. 天人たちにビシヌ神が悪魔の討伐を確約されたこと、

0007. ビシヌ神の攻撃による悪魔軍の壊滅と敗走、

0008. マッリヤワンが最後の抗戦に敗れ、スマリなどの悪魔がラサータルに逃げこんだこと、

0009. ダスグリーウ（ラーワン）などが誕生し、苦行のためにゴカルン聖地へ行ったこと、

0010. ラーワンをはじめ悪魔の三兄弟の苦行と神約の獲得、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0011. ラーワンがランカを占拠し自ら即位灌頂の儀式を行い、悪魔族を定住させたこと、

0012. 妹シュルパンカとラーワンなどの三兄弟の結婚、メグナドの誕生、

0013. 兄クベルの戒めの伝言を聞いたラーワンの怒り、

0014. ラーワン率いる悪魔軍とクベル率いる夜叉軍の激しい戦い、

0015. 勝利したラーワンが戦利品として花の飛行乗物を奪ったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0016. 大神シウ様がラーワンの高慢を戒め、チャンドラハースという利刀を授けられたこと、

0017. シータの生まれと名前のいわれについて、

0018. 孔雀などの鳥に変身した天人たちが、自分の変身した鳥に神約を授けたこと、

0019. ラーワンに殺されたアナランニャ王がかけた呪い、

0020. ナラド仙人に会ったあと、ラーワンが閻魔大王の国へ遠征して戦ったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0021. ラーワンが黄泉の国を攻撃し、閻魔大王の軍勢を壊滅させたこと、

0022. ブランマ様のおかげで生き延びたラーワンが、自分の勝利と錯覚したこと、

0023. ニワトカワチ族と盟約を結んだラーワンの活躍、

0024. ラーワンが、夫を失い嘆く妹シュルパンカをダンダクの森へ送ったこと、

0025. メグナド（インドラジット）の祭祀と、ラーワンが天界の攻略に向けて出発したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0026. 天女ランバを凌辱したラーワンにかけた、ナルクーバル（クベルの息子）の苛烈な呪い、

0027. ワス神群の一神サビットラと悪魔の勇将スマリの死闘、

0028. 天人軍と悪魔軍の大乱戦の末、天帝とラーワンとの一騎討ちとなったこと、

0029. 幻術を使って天帝を生け捕りにしたメグナドが、手勢を率いてランカの都に帰還したこと、

0030. 創造神ブランマ様が、天帝をふたたび天国の帝王に復権させられたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0031. ラーワンが大臣たちを連れて、ナルムダ川で齋戒沐浴して大神シウ様を礼拝したこと、

0032. ナルムダ川での祭祀を邪魔されて怒ったラーワンをアルジュン王が捕縛したこと、

0033. プラスチャ仙人が、ラーワンをアルジュン王の虜囚の身から解放したこと、

0034. 猿の王バリに敗北したラーワンが、巧みに取り入って義兄弟の契りを結んだこと、

0035. 天帝のハヌマン攻撃が父の風の神の怒りにふれ、生類の息を封じられたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0036. 蘇生して神約を授けられたハヌマンの話と、ラーム様が仙人たちを祭祀に招待したこと、

0037. ラーム様が王室会議場に入って代議員を招いたこと、

0038. ラーム様がジャナク王、ユダジット王子らにつづいて、三百の諸王侯を帰国させたこと、

0039. 諸王侯の貢ぎ物をラーム様に分配され、みなが至福の歓喜に浸ったこと、

0040. 猿、熊、悪魔たちとの別れ、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0041. 花の飛行乗物が去ったあと、バラトがラーム様の王政を賛嘆したこと、

0042. 苦行の森を見たいと言うシータの願いをラーム様が叶えたこと、

0043. シータに関する忌まわしい風評を聞き、ラーム様が言語に尽くせない衝撃を受けたこと、

0044. ラーム様が、三人の王弟全員を王室会議場に呼集したこと、

0045. ラーム様が広がる悪評を話して、シータを森に捨てるようラクシマンに命じたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0046. ラクシマンがシータを馬車に乗せ、ガンジス川の岸まで連れていったこと、

0047. 悲しみに耐えながら、シータに真実を告げたラクシマン、

0048. 独り森に置き去りにされたシータの悲痛な号泣、

0049. 仙人の子息たちの報告を受けたワルミキ仙人が、シータを道場へ連れていったこと、

0050. ラクシマンと御者スマントラ大臣の対話、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0051. スマントラ大臣が王家の過去世の因縁と未来談を語り、悲しむラクシマンを慰めたこと、

0052. 王宮に戻り、悲しみに打ちひしがれるラーム様をラクシマンが慰めたこと、

0053. ヌルグ王が受けた呪いの昔話と、ラーム様がラクシマンに指示した正しい裁決、

0054. ヌルグ王が息子に王位を譲り、美しい穴を掘らせその中で呪いの報いを受けたこと、

0055. ニミ王仙とワシスト仙人が、お互いに呪いをかけあって身を滅ぼした古話、

ウルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0056. 水神と愛の交歓をしたウルワシに、怒ったミトラ神がかけた呪い、

0057. お互いの呪いによって身を捨てたのち、ワシスト仙人とニミ王仙が新しい体を得たこと、

0058. ヤヤティ王に対するシュクラ仙人の呪い、

0059. ヤヤティ王がシュクラ仙人の呪いを容受したこと、

埋め草 (01) 直訴するために訪れた犬に、ラーム様が王室会議場に入ることを許したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

- 埋め草 (02) 犬が乞食僧のブラーマンを僧院長に推挙し、その地位を忌避する理由を述べたこと、
0060. 目的を叶える確約をしたラーム様を、チャヤワン仙人たちが賛嘆称揚したこと、
0061. マドウ魔神の神約とラワンアスルの威力からの解放をラーム様に懇願した聖仙たち、
0062. ラーム様がシャットルガンの意欲をかって、ラワンアスル殺害を任せたこと、
0063. ラーム様がシャットルガンにラワンアスルの槍から身を守る術を教えたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0064. シャトルガンがラーム様の指示を受けて先発隊を送り、そのあと自ら出陣したこと、

0065. ワルミキ仙人がシャトルガンに聞かせた、スダース王の子カルマシパードの受難、

0066. シータの双子を哺育するというワルミキ仙人の確約に歓喜したシャトルガン、

0067. チャヤワン仙人がシャトルガンに話したラワンアスルの悪事、

0068. ラワンアスルを待ち伏せていたシャトルガンが怒気満々罵言を浴びせたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0069. シャットルガンとラワンアスルの戦い、

0070. シャットルガンが王都を築き十二年が過ぎたとき、ラーム様に会いたいと願ったこと、

0071. ワルミキ仙人によるラーム様の一代記の弾き語り、

0072. シャットルガンがラーム様の膝元で七日を過ごし、マドウラの都へ帰ったこと、

0073. 死児をかかえ号泣する老ブラーマンがラーム様に詰め寄ったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0074. ナラド仙人がラーム様に説明した老ブラーマンの子供の死の原因，

0075. ラーム様が花の飛行乗物からシュードラの苦行者を領国内の南方で発見したこと，

0076. シャムブークシュードラを殺して天人たちの慶祝と賛嘆を受けたラーム様，

0077. アガステヤ仙人が話した、人間の屍肉を貪り食う天界の住人の秘話，

0078. アガステヤ仙人がシュウエット王仙を飢渴の苦しみから解放したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0079. イクシュワク王の子ダンド王の治政，

0080. ダンド王がブルグ仙人の系統の娘を手ごめにしたこと，

0081. シュクラ仙人の呪いでダンド王の国が、家族、家臣、領民ともども破滅したこと，

0082. ラーム様がアガステヤ仙人の道場から、アヨッヂャの都へ帰ったこと，

0083. バラトの助言を受け入れてラージスヤ・ヤギの催行をラーム様が思いとどまったこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0084. アシワメドをすすめるラクシマンの提言を受け入れて、ラーム様が決断したこと、

0085. ブラーマン殺しの重罪の報いを受けて、無明の下界へ落ちた天帝、

0086. 天帝がブラーマン殺しの罪から解放されたいきさつ、

0087. ラーム様がラクシマンに話したイル王の故事、

0088. ラーム様が語ったイル王存命中の秘話、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0089. ブドとイラの結婚とプルラワの誕生，

0090. 馬供養の祭祀によって、女身イラが本来の男身イル王に復歸したこと，

0091. ラーム様の命令で、馬供養の祭祀の準備がすすめられたこと，

0092. ラーム様の馬供養の祭祀における、未曾有の布施と敬意，

0093. 馬供養の祭場で、ワルミキ仙人が双子の少年に『ラーマヤン』の弾き語りを命じたこと，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0094. ラーム様がラウとクシの『ラーマヤン』の弾き語りを満場の大会場で聞いたこと、

0095. ラーム様がシータに身の潔白を宣誓させたいと考えたこと、

0096. 聖者ワルミキ仙人が、シータの純潔を確認したこと、

0097. 身の潔白を宣言し、ラサータルに沈んでいったシータ、

0098. プランマ様がラーム様を慰めて『ラーマヤン』の「北方の章」の聴聞をすすめられたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0099. シータが地下界へ沈んだあとのラーム様の悲嘆、母たちの昇天、ラーム神王の親政、

0100. ガールツギヤ仙人の要請で、ラーム様がバラトにガンダルウ国への遠征を命じたこと、

0101. バラトがガンダルウ族の国を攻略したあと二都を新設し、アヨツデヤに帰還したこと、

0102. ラーム様の命令により、ラクシマンの二人の王子をカルパト国領土の王に即位させたこと、

0103. 苦行者に変装した死魔王がラーム様との対話を熱心に望んだこと、

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0104. 死魔王の携えてきたブランマ様の伝言とラーム様の同意，

0105. ラーム様が死魔王との約束を思いだし、ラクシマンの身のうえを深刻に心配したこと，

0106. ラーム様に捨てられたラクシマン，

0107. ラーム様がクシとラウをそれぞれ王位に就け、即位灌頂の儀式を行ったこと，

0108. 自らの本土・浄土への移住を決意したラーム様，

ワルミキ・ラーマヤン (02) / [07] 北方の章

0109. ラーム様の鹿島立ちに、アヨッデヤの都人たちがこぞって随伴したこと、

0110. ラーム様のビシヌ神との融合合体、

0111. 『ラーマヤン』の大団円と、その偉大な功德についての説明、

